

伊勢別街道

伊勢別街道の概要

関宿東追分で東海道と分岐し、現在の津市芸濃町を通過して南下、津の江戸橋で伊勢街道と合流するこの街道は、江戸時代には「いせみち」「参宮道」「山田道」などと記され、「伊勢別街道」の名が使われるようになったのは、明治10年以降であると思われる。

伊勢別街道の名は、四日市日永追分から伊勢にいたる伊勢街道の支道の意味で、街道の総距離はおよそ四里二六町。途中、楠原、棕本、窪田に宿場が設けられ、江戸時代には京都方面からの参宮客で賑わった。

棕本宿には、約20軒の旅籠があり、現在でも各地の参宮講の講社札を掲げた旅籠も存在する。また、宿場の常としてたびたび大火に見舞われたため、街道を故意に屈曲させて防火の便をはかっている。

窪田宿においては、30軒を越える家が近年まで屋

号を持ち、昔は宿屋であったと伝えられている。

3つの宿場以外の沿道では、茶屋などの施設が発達し、大古曾村の森などでは「茶屋町」の名が付けれられ、何軒かの茶屋が軒を連ねていたとされる。

また、日本の政治の中心が大和にあった頃には、大和から伊賀を通過して伊勢にいたる主要ルートでもあった。そのころの街道は、関で東海道と分岐したあと鈴鹿川を渡り、亀山市関町古厩から津市芸濃町棕本のあたりから安濃川に沿って南下するコースで、現在のように志登茂川に沿って豊久野を通るコースは、室町時代以降のことである。

このことは、応永25年（1418）、將軍足利義持に随従した花山院長親の『耕雲紀行』の中に、「とよく野二里はかり行はてて、くほとといふ里もすきて、うらちかくなる程…」と記されていることから明らかである。その後、室町將軍伊勢参宮の標準的コースとなった。

將軍だけでなく、一般の参宮道者も通ったとされるこの街道には、参宮講社の寄進によって作られた県内最大の常夜燈が現存し、往時を偲ぶせる街道遺産となっている。



(1) 東の追分・A

(亀山市関町木崎～津市芸能町楠原)



5 油久 岩田油店



4 古しえの宿「長谷屋」

道の駅関宿

関駅

約 900 m

東海道

JR 関西本線

鈴鹿川

6 勸進橋

関ジャンクション

- 地図内凡例
- 道標など
 - 常夜灯
 - 神社・仏閣・城址など
 - 地蔵など
 - 句碑
 - その他文化資産等
 - まちなか博物館
 - 博物館・資料館
 - まちがやすい分かれ道
 - バス停
 - トイレ



2 伊勢神宮一の鳥居
旅人がここからはるか伊勢神宮を拝むためのもの。伊勢神宮式年遷宮の際に宇治橋南詰めの鳥居を移し替える。



1 東の追分
東海道と伊勢別街道の分岐点。県指定史跡。伊勢神宮一の鳥居や道標・常夜燈・手水鉢・一里塚跡の碑などがある。



3 常夜燈
「常夜燈大坂津国屋重右衛門 江戸嶋屋佐右衛門 元文5庚申年(1692)正月手坂組中」と刻まれている。



6 勸進橋
一の鳥居から南へ500m。過去に度々の洪水で流失。勸進により浄財を求めて架けたところからこの名がつく。



10 連子格子の家



9 鈴鹿駅跡(御厩)
推定。駅(うまや)とは、旅人の便宜のために乗馬や人夫を備えたり、また、旅人の宿舎を設けた場所のことである。亀山市指定史跡。



8 御厩の松跡
昭和58年3月まで御厩の松とよばれる老松がそびえていたが、病虫害のため伐採された。直径2.35m、樹齢約350年の根株が保存されている。



7 大井神社跡の石碑
清水をご神体として祀った。

県道と合流し高架をくぐる

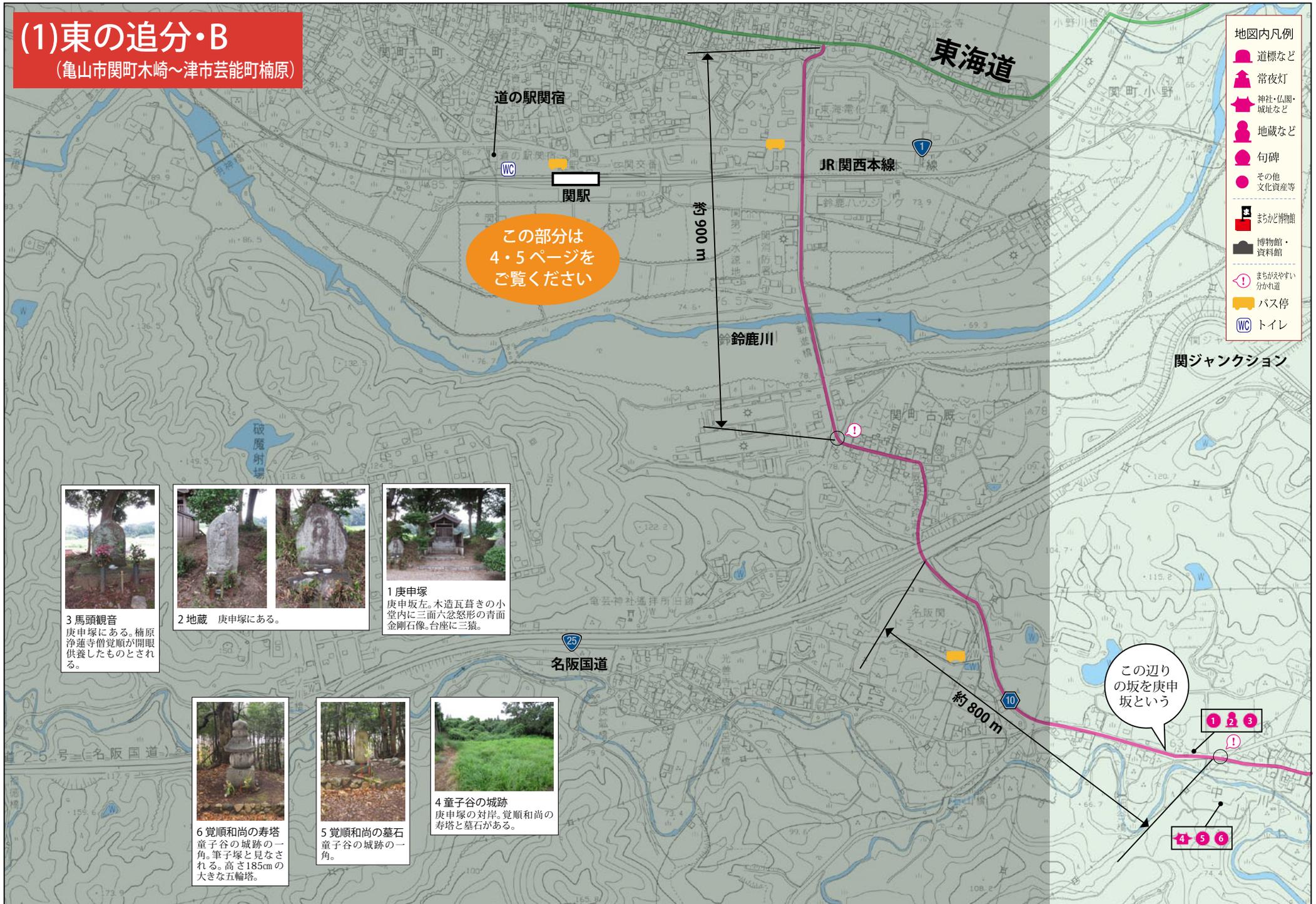
亀山市と津市との市境

この部分は6ページをご覧ください

9ページ 石山観音へ続く道

(1)東の追分・B

(亀山市関町木崎～津市芸能町楠原)



この部分は
4・5ページを
ご覧ください



3 馬頭観音
庚申塚にある。楠原
浄蓮寺僧覚順が開眼
供養したものとされ
る。



2 地蔵 庚申塚にある。



1 庚申塚
庚申坂左。木造瓦葺きの小
堂内に三面六忿怒形の青面
金剛石像。台座に三猿。



6 覚順和尚の寿塔
童子谷の城跡の一
角。筆子塚と見なさ
れる。高さ185cmの
大きな五輪塔。



5 覚順和尚の墓石
童子谷の城跡の一
角。



4 童子谷の城跡
庚申塚の対岸。覚順和尚の
寿塔と墓石がある。

この辺り
の坂を庚申
坂という

1 2 3

4 5 6

(2) 楠原宿

(津市芸濃町楠原～林)



1 石山観音道の道標
坂の少し下。鈴鹿カンツリークラブ入口のところにある。



2 3 4 5 6



6 地蔵と梵字

- 地図内凡例
- 道標など
 - 常夜灯
 - 神社・仏閣・城址など
 - 地蔵など
 - 句碑
 - その他文化資産等
 - まちかど博物館
 - 博物館・資料館
 - まちがえやすい分かれ道
 - バス停
 - トイレ



4 阿弥陀如来立像



2 石山観音の石仏群
磨崖石仏。県指定文化財。



5 聖観音菩薩立像



3 山口草堂句碑



10 石標
旧明村各地の無格社をここに合祀して村社明神社と改称された時の碑。



9 常夜燈
明神社参道右側に立つ。「柴垣社広前」と刻まれている。文化10年(1813)のもの。



12 家なみ



11 法華石経塔
浄蓮寺境内。

石山観音へ続く道。道標がある。

この付近を問屋垣内とよぶ

約1000m

約800m



13 小堂
街道左側の小高い木立ちの中。青面金剛像を祀っている。台座に三猿が刻まれている。



14 碑
高さ60cmの自然石。「弘化4年(1847)12月氏子中」と刻まれている。



17 石燈籠
県道津関線との交差点。道標を兼ねた常夜燈。「御神燈 右さんぐう道 左り京道 安永五丙申年(1776)」と刻まれている。



16 旧明村役場庁舎
国登録有形文化財



15 分岐点
蛭谷街道(龜山市楠平尾、安知本を経て白子への道)との分かれ道。



7 明神社
問屋垣内の北方の丘陵地にあり、古くは楠天神といった。



8 おさよの池
昔、大雨のたびに池の堤が破れるので人柱を立てることに。参道の途中で親とはぐれて迷子になっていた才(又はさよ)という少女を生き埋めにしたところ雨も降らないのに大水が出たり、病人が出たりと災いがおこったため、手厚く供養したという伝説が残る。明神社の中にある。

押しボタン式の信号のある横断歩道を渡る

新玉橋

(3) 椋本 (津市芸濃町中繩～椋本)

地図内凡例

- 道標など
- 常夜灯
- 神社・仏閣・城址など
- 地蔵など
- 句碑
- その他文化資産等
- まちかど博物館
- 博物館・資料館
- まちが分やすい分かれ道
- バス停
- トイレ



1 横山池
慶応2年(1866)に駒越五良八が私財を投じて造った。



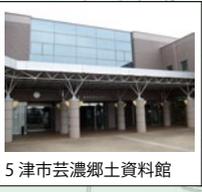
2 駒越翁彰功碑
昭和9年に建立された碑。堤の下にある。



3 仁王経 上の塔
文化2年(1805)に建立された自然石。彰功碑の横に建つ。疾病流行の治除が建碑の主目的であった。



4 椋本神社



5 津市芸濃郷土資料館



6 東日寺



8 山口草堂句碑



7 大椋
椋本の地名は、この大椋によるものである。国指定天然記念物



9 標柱
明治43年の道路里程標を復元した木製の柱。



10 自然石の道標
江戸後期のものと思われる。標柱隣。「左さんくう道」と刻まれている。



11 伊勢別街道講札博物館



12 参宮講札
角屋所有。



13 家なみ



14 延命地藏堂
正徳5年(1715)の建立とされる。石地蔵を祀っている。



15 手水鉢
延命地藏堂前。文政4年(1821)と刻まれている。



16 仁王経 下の塔
「仁王経」と刻まれている。

大椋への道を示す、昭和8年の道標がある。「靈樹大椋 従是南二丁」と刻まれている。

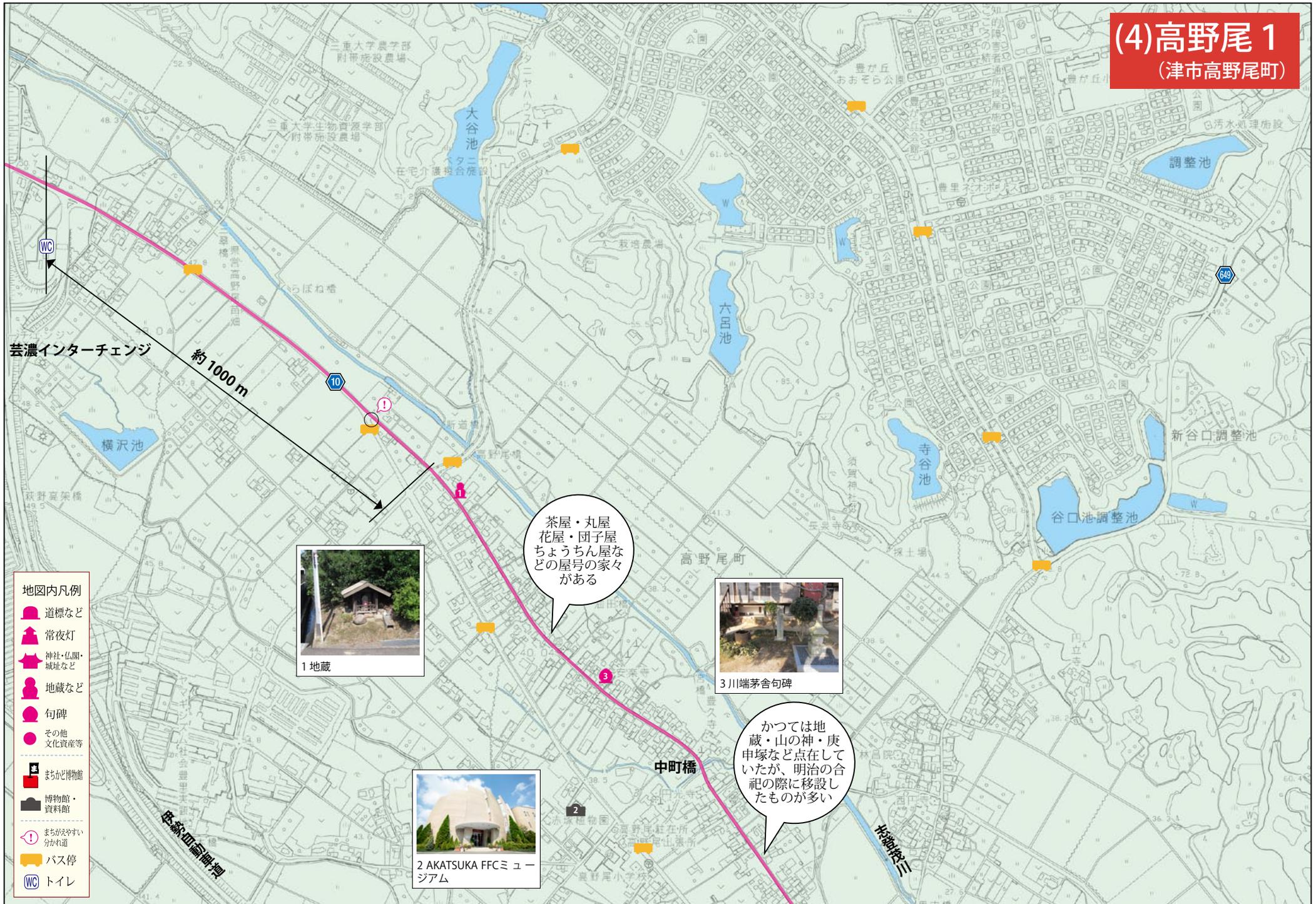
この辺りに問屋があった

県道と合流

かつては広大な原野が広がり、都にもその名が知られたといわれる

伊勢自動車道

(4)高野尾 1 (津市高野尾町)



- 地図内凡例
- 道標など
 - 常夜灯
 - 神社・仏閣・城址など
 - 地蔵など
 - 句碑
 - その他文化資産等
 - まちかど博物館
 - 博物館・資料館
 - まちがえやすい分かれ道
 - バス停
 - トイレ



茶屋・丸屋
花屋・団子屋
ちょうちん屋など
の屋号の家々
がある



かつては地蔵・山の神・庚申塚など点在していたが、明治の合祀の際に移設したものが多



(5)高野尾 2

(津市高野尾町～大里睦合町)



- 地図内凡例
- 道標など
 - 常夜灯
 - 神社・仏閣・城址など
 - 地蔵など
 - 句碑
 - その他文化資産等
 - まちかど博物館
 - 博物館・資料館
 - まちがえやすい分かれ道
 - バス停
 - トイレ



1 小堂
初代の松の枯れ木を祀った。



2 常夜燈
文政5年(1822)と刻まれている。



3 香興句碑

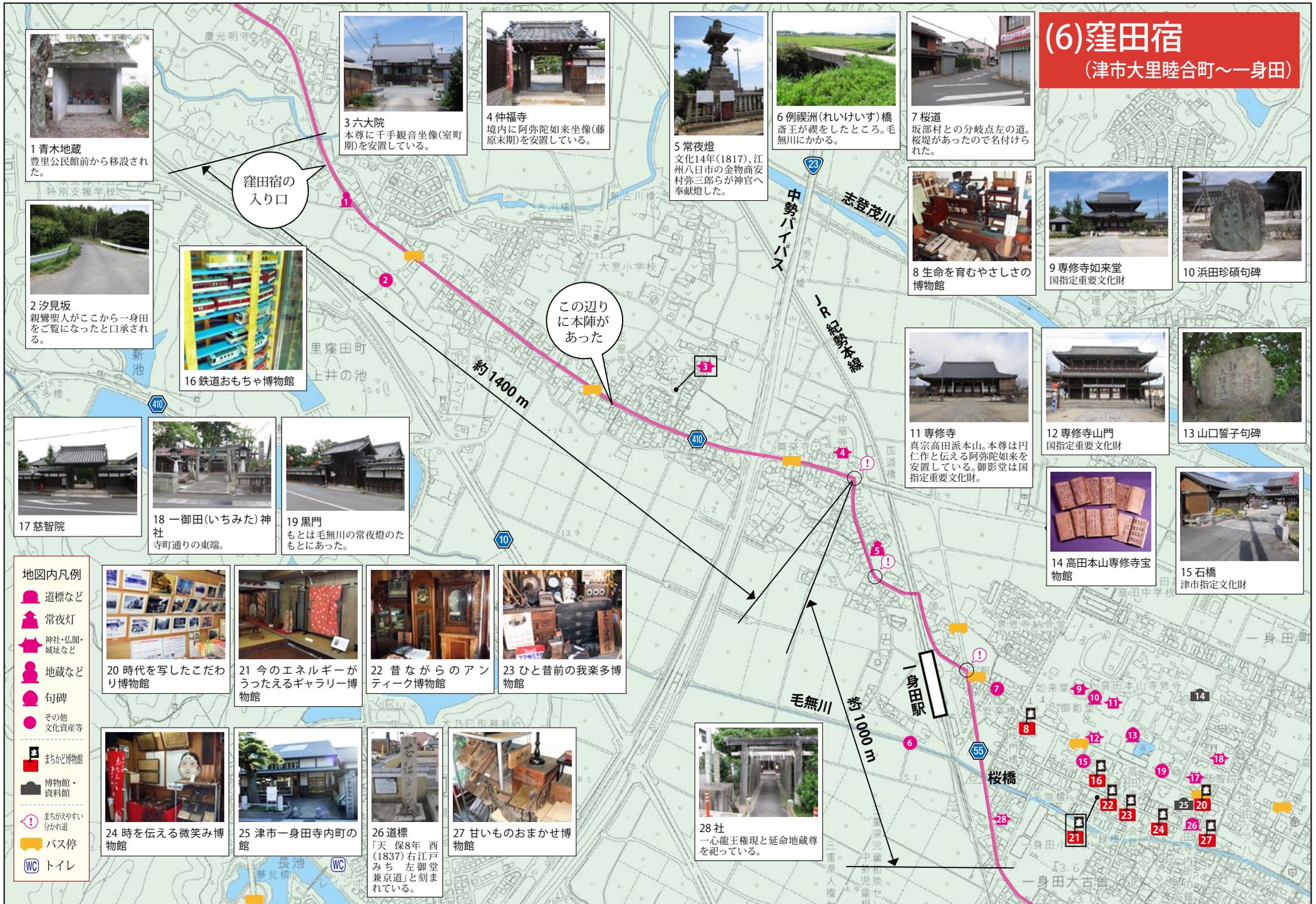


4 銭掛松石柱

昔、病気になるた参宮道者が、旅半ばで引き返す際、この地の松に銭を結びつけ、松を拜んで立ち去った。別の人がその銭を取ろうとすると、銭が蛇に化けて襲いかかったといわれ、この松に銭を掛けると参宮と同じくらいのご利益があるという民話が残る。現在、碑があり、「ぜに可け松」と刻まれている。

新道と旧道が合流する

(6) 窪田宿 (津市大里睦合町～一身田)



1 青木地蔵
豊里公民館前から移設された。



3 六大院
本尊に千手観音坐像(室町期)を安置している。



4 仲福寺
境内に阿弥陀如来坐像(藤原末期)を安置している。



5 常夜燈
文化14年(1817)、江州八日市の金物商安村弥三郎らが神官へ奉献燈した。



6 例禊洲(れいけいす)橋
齋王が禊をしたところ。毛無川にかかる。



7 桜道
坂部村との分岐点左の道。桜堤があったので名付けられた。



2 汐見坂
親鸞聖人がここから一身田をご覧になったと口承される。



16 鉄道おもちゃ博物館



17 慈智院



18 一御田(いちみた)神社
寺町通りの東端。



19 黒門
もとは毛無川の常夜燈のたもとにあった。

この辺りに本陣があった

約1400m



8 生命を育むやさしさの博物館



9 専修寺如来堂
国指定重要文化財



10 浜田珍碩句碑



11 専修寺
真宗高田派本山。本尊は円仁作と伝える阿弥陀如来を安置している。御影堂は国指定重要文化財。



12 専修寺山門
国指定重要文化財



13 山口誓子句碑



14 高田本山専修寺宝物館



15 石橋
津市指定文化財

- 地図内凡例
- 道標など
 - 常夜灯
 - 神社・仏閣・城址など
 - 地蔵など
 - 句碑
 - その他文化資産等
 - まちかど博物館
 - 博物館・資料館
 - まちがえやすい分かれ道
 - バス停
 - トイレ



20 時代を写したこだわり博物館



21 今のエネルギーがうったえるギャラリー博物館



22 昔ながらのアンティーク博物館



23 ひと昔前の我楽多博物館



24 時を伝える微笑み博物館



25 津市一身田寺内町の館



26 道標
「天保8年 酉(1837)右江戸みち 左御堂兼京道」と刻まれている。



27 甘いものおまかせ博物館



28 社
一心龍王権現と延命地藏尊を祀っている。

約1000m

(7)一身田

(津市一身田大古曾～上浜町)

地図内凡例

-  道標など
-  常夜灯
-  神社・仏閣・城址など
-  地蔵など
-  句碑
-  その他文化資産等
-  まちかど博物館
-  博物館・資料館
-  まちがえやすい分かれ道
-  バス停
-  トイレ



1 家なみ



3 伊勢木綿株式会社



2 地藏堂

「慈悲のあみだて救えよ地藏尊 生死の海に志つむ我等を」の額を掲げている。



5 常夜燈

安永6年(1777)に建立された。伊勢街道と伊勢別街道との追分。伊勢別街道の終着点。津市指定文化財。



6 道標

明治22年に再建された。「左高田本山道東京占とをりぬけ」と刻まれている。



7 江戸橋

江戸に向かう藩主の見送りもここまでということ江戸橋と命名されたという。



8 蔵のある家



4 見初大明神

獅子頭を祀る。

